

土木学会 コンクリート委員会  
平成 22 年度 第 3 回 規準関連小委員会 議事録 (案)

1. 日 時: 平成23年1月25日(火) 13:00~15:00
2. 場 所: スクワール麴町4F羽衣
3. 出席者: 鎌田敏郎(委員長)、上野敦(幹事長)、浦野真次、片平博、川西貴士、坂本淳、鶴田浩章、寺村悟、野村倫一、橋本親典、日比野誠、堀越直樹、三谷芳弘、皆川浩、横関康祐、野島昭二、久田真、椿龍哉、森寛晃(記録) 以上19名(敬称略・順不同)
4. 配布資料:
  - 3-0 平成22年度第3回規準関連小委員会 議事次第
  - 3-1 平成22年度第2回規準関連小委員会 議事録(案) <平成22年11月10日開催>
  - 3-2 規準関連小委員会 委員構成(案)ならびに作業部会(案)
  - 3-3 2010年制定 コンクリート標準示方書 規準編 JIS規格集
  - 3-4-1 2010年制定 土木学会コンクリート標準示方書[規準編] 改訂の概要
  - 3-4-2 Standard Specifications for Concrete Structures-2010  
—Revision of “Test Methods and Specifications, JSCE Standards—
  - 3-5 セメント・水・骨材・混和材料WG資料
  - 3-6 鋼材・補強材WG資料
  - 3-7 フレッシュコンクリートWG資料
  - 3-8-1 硬化コンクリートWG・ISO原案に対応する臨時WG 審議メモ
  - 3-8-2 規準編改訂版への意見(太平洋コンサルタント山田氏)
  - 3-8-3 コンクリートの塩分浸透性に関する試験方法についてのコメント(土研渡辺氏)
  - 3-8-4 Template for comments and secretariat observations
  - 3-8-5 New work item proposal
  - 3-8-6 ISO TC71/SC1 draft (Testing concrete— Part11: Determination of the chloride resistance of concrete, unidirectional diffusion)
  - 3-9 製品・施工機械等WG資料
  - 3-10 補修材料WG資料

5. 議 事:

(1) 委員長挨拶

鎌田委員長より、次回2012年版発刊に向け、委員の方々には引き続き精力的な活動を要請したいとの挨拶がなされた。そのほか、コンクリート常任委員会に出席した橋本委員より、本委員会に関連する事項について説明がなされた。先に委員交代の申し出があった森氏は委員就任が正式に承認されたこと、次期コンクリート委員長候補者に東工大二羽教授が選出されたことが報告された。

(2) 前回議事録(案)の確認

橋本委員作成の資料3-1に基づき、内容の確認が行われ、原案通り承認された。

(3) JCIコンクリート工学誌への投稿記事について

上野幹事長より、コンクリート工学誌4月号に掲載予定の2010年版改訂概要ならびにJCIWebサイトに公開される解説記事の原稿が完成した旨、報告があった(資料3-4-1および資料3-4-2)。修正点など気付きがあれば、メールなどで連絡する。

(4) 各WGからの報告

各WGより、2012年版編集に向けての改訂・追加のポイントが紹介された。

- ・ セメント・水・骨材・混和材料WG(資料3-5)

制定が望まれる試験方法6つのほか、骨材破碎試験などが候補に挙げられている。今後、関連規準の有無などを調査し、規準化の必要性・可能性を検討する。

- ・ 鋼材・補強材WG(資料3-6)

エポキシ樹脂塗装鉄筋関連の16規準を検討予定。前回に引き続き作業量は多くなる見込み。電磁波レーダ法と電磁誘導法については、近々、NDIS規格が制定されるため、必要があれば関連規準として活用できる。

- ・ フレッシュコンクリートWG(資料3-7)

高流動コンクリート施工指針、ポンプ施工指針の改訂に伴う関連規準の見直し・追加など。委員交代の申し出があり、橋本委員(主査)と浦野委員の後任委員として、丸岡正知氏(宇都宮大)と田中博一氏(清水建設)が推薦され、異議無く了承された。委員交代に伴い、日比野委員が主査を担当することになった。

- ・ 硬化コンクリートWG(資料3-8-1~6)

土研法(通電、非定常、AgNO<sub>3</sub>噴霧)のほか「今後期待される規準」として掲載の規準案についても検討したい。塩化物イオンに関する諸規準に関して、内容を検討したい。性能規定化の枠組みの中の規準体系のあるべき姿について議論したい。

硬化コンクリートWGでは、ISO/CD1920-11に関する意見照会に対応すべく、臨時のWGを開催した。本ISOは、JSCE-G 572と深く関連した規格であり、両者の内容を対比した上で、土木学会からの指摘事項として資料3-8-4を整理した。各委員は、ISO/CD1920-11(資料3-8-6)と指摘事項の表(資料3-8-4)を確認の上、追加意見等があれば、1/28までに久田主査まで知らせる。久田主査は、全体をとりまとめ、本件意見照会元のJCIに送信することとなった。

- ・ 製品・施工機械等WG(資料3-9)

新規発刊されるライブラリーや技術シリーズで関連する規準がないか検討する。

- ・ 補修材料WG(資料3-10)

表面含浸材の現地試験についての検討を継続する。試験データの収集を引き続き行い、他の委員会成果などを見極めてから規準化作業を実施する。

- ・ 委員構成の変更(フレッシュコンクリートWGのみ)と2010年版規準編の正誤表(セメント・水・骨材・混和材料WG、鋼材・補強材WG、フレッシュコンクリートWG分)を上野が取りまとめる。

#### (5)全体に関わる継続審議事項

以下の案件につき、審議がなされた。

##### ☆土木学会規準の修正作業方法について

皆川委員より、資料3-10に基づき、次回2012年版の改訂作業方法について提案がなされた。

- ・ 前提条件によって議論が変わる。これまで使用してきた製本公司(TEX使用)にこだわる必要があるか？
- ・ 一律で変換できるなどのメリットがあったはず。
- ・ 皆川委員を中心として、セメント・水・骨材・混和材料WGに協力頂き、新たに「修正作業WG」を編成する。次回までに改訂作業方針の素案を示す。

##### ☆JIS規格集のスリム化について

- ・ JISのWeb版のように閲覧のみ可能(印刷不可)にして公開する方法がある。Webページ作成費や管理費が必要。
- ・ 紙媒体を前提で考えるなら、使用頻度の低い規格を削除または省略するしかない。他には、薄い紙を

選定するなど。

- ・ 学会収益確保の面から、電子媒体化は問題ないのか？利用者利便性の面からはどうか？電子媒体化が可能なら、冊子スリム化に関する議論は必要なくなる。
- ・ JIS規格集の電子媒体化は出来ない？ただし、土木学会規準だけでも電子化すればスリム化は可能。
- ・ アンケートを実施してはどうか？2010年版の交付リストあり。まずは、委員会の中だけでも良い。日比野委員を主査としてフレッシュコンクリートWGのメンバーにより新たに「電子化WG」を編成する。次回委員会までにアンケート実施・回収・結果の整理までを行いたい。アンケート素案は、電子化WGが作成し、主査幹事会メンバーにて審議する。

☆全体構成(フレームワーク)の見直しについて

- ・ 前回委員会で、久田委員より発言のあった土木学会規準の全体構成見直しについて意見が出された。望まれる規準はどのようなものか？例えば、設計用値が欲しい、検査で使いたいなど。委員会の中でどこまでやるか？規準のあるべき姿についての議論が必要。本件は継続審議事項とし、次回委員会で久田委員に話題提供いただく。
- ・ 示方書共通編の次回改定は2012年を予定しており、これらとの関連も踏まえ、考えるべきではないか。

(6)今後の予定

2012年版の規準編の修正目次案は、発刊の10か月前までに常任委員会へ諮る必要がある。すなわち、2012年の年明け早々には提出となる。このことも考慮して、今後の作業についての検討を行う。

(7)その他

今回を最後に委員交代される橋本委員と浦野委員より、簡単な挨拶を頂いた。

(8)平成23年度第1回委員会開催

日時： 平成23年4月26日(火)14:00～17:00

場所： スクワール麴町 5F 寿

以上